

	<h1>志木三小だより</h1> <p>学校教育目標 やさしい子 考える子 丈夫な子</p>	志木市立志木第三小学校
		平成28年度 No.5
		平成28年7月21日
		志木市柏町3丁目2番1号
		TEL 048 - 471 - 1062
		児童数7月1日現在 577名

「冷凍みかんと夏休みの思い出」

校長 可知 良之

あっという間の1学期が終わり子どもたちにとっては楽しみの夏休みが始まります。入学式、始業式、そして5月には運動会と大きな行事がたくさんありましたが、保護者や地域の皆様のおかげで思い出に残る素敵な1ページとなりました。ご支援ご協力に感謝申し上げます。

夏休みといえば、私の年代ですと「麦わら帽子はもう消えた」の歌詞で始まる吉田拓郎さん作詞・作曲の『夏休み』という曲が頭に浮かびます。吉田さん本人が小学生時代過ごした鹿児島県谷山町（現在は鹿児島市）の夏の情景を描いた作品だそうで、シンプルな歌詞ですがとても懐かしく、私自身の子どもの時代とも重なり大好きな一曲です。

私が小学生だったのは昭和40年代です。まだ舗装道路が完全に整備されていない頃でしたし、あちらこちらには自然のままの状態の遊び場がたくさんあった時代です。毎日鶏が鳴くより早いぐらいの時刻に起きて友達と近くのクヌギの木を見に行っでは、クワガタを捕まえに行くのが日課になっていました。時々カブトムシなどが捕れると「やったあ」と大喜びです。

夏休みといっても毎日これといったことはありませんでしたが、毎年お盆休みの時には必ず父が帰省するため、家族そろって岐阜の田舎に旅行したことはよく覚えています。先日ふとそのことを思い出したとき

がありました。それは、7月8日の給食で冷凍みかんが出されたときです。

冷凍みかんで夏休みの旅行と聞くと不思議に思われるかもしれませんが。岐阜の父の実家に行くには、東京から東海道新幹線で名古屋まで出て中央本線で恵那まで行きます。当時はまだ新幹線が開業したばかりで最新の電車に乗れることが楽しみの一つでもありました。（ちなみに中央本線はSLが定期的に走っていました。）その東京駅で必ず父が購入するものが缶ビールとおつまみにお茶、そして冷凍みかんでした。今では冷凍みかんなど珍しくはありませんが当時はきっと珍しかったのでしょう。東京でしか食べられないものを食べさせたいという父の思いもあったのかもしれません。あの特有のシャリッとした食感や味わいとともに家族そろって旅行に出かけた楽しさや田舎の情景が夏休みの記憶として残ったのだと思います。たぶんこれは私だけの記憶の深いところにある夏休みの思い出なのかもしれません。

学校を離れての1ヶ月以上の長いお休みです。一人一人の子どもたちが心に残るたくさん思い出を作って、また2学期に会えることを楽しみにしています。

